

## 増山城(増山城, 和田城) (国の史跡, 続百名城) (砺波市増山)

増山城(ますやまじょう)は、富山県砺波市(越中国砺波郡・射水郡・婦負郡の三郡境付近)にあった日本の城(山城)。旧名、和田城。国の史跡。続日本100名城(日本城郭協会)。

### 概要

和田川右岸の山上に築かれた山城であり、松倉城(魚津市)、守山城(高岡市)と並び越中三大山城と称された。

南北朝時代の貞治2年(1363年)、『二宮円阿軍忠状』に「和田城」として史料に見えており、はじめ桃井直常方の勢力が守備していたが、後に幕府軍により攻略されたとみられる。

戦国時代には神保氏の重要拠点として知られ、永禄3年(1560年)に神保長職が上杉謙信により富山城を攻略された後、増山城に立て籠もった。この時の謙信書状に「増山之事、元来嶮難之地、人衆以相当、如何ニも手堅相抱候間」とあるように、要害堅固な城であった。

永禄5年(1565年)に長職が上杉氏に降伏した後は、増山城が神保氏の本拠地となるが、神保家の反上杉派が一向一揆と結んで抵抗したため、天正4年(1576年)、上杉謙信により攻略された。その後、天正9年(1581年)に織田軍の攻撃により落城し、佐々成政が重臣・佐々平左衛門や佐々源六(勝之)、直属の馬廻り衆を入れて守っていた。

前田氏治下には中川光重、山崎長鏡が城代を務めたが、元和の一国一城令により廃城となったとみられる。2017年(平成29年)4月6日、続日本100名城(135番)に選定された。

### 年表

- 貞治元年(1362年) 二宮円阿が和田城(増山城の前身)を警固する。
- 永正3年(1506年) 芹谷の合戦(般若野の戦い) 長尾能景が一向一揆勢力と対決し、討死する。
- 永禄3年(1560年) 長尾景虎が越中に侵攻し、富山城主神保長職が追撃に逢い、増山城に落ちのびる。
- 永禄5年(1562年) 神保長職が再起した為、再び上杉謙信が増山城を攻め、長職は降伏した。
- 永禄11年(1566年) 増山城の神保長職が上杉氏と結び、一向一揆と戦う。
- 元龜3年(1572年) 一向一揆勢力が増山城に拠る。
- 天正4年(1576年) 上杉謙信が増山城を攻略。上杉氏武将・吉江宗信が守る。
- 天正9年(1581年) 織田勢による増山城の焼き討ち
- 天正11年(1583年) 佐々成政が越中を平定する。
- 天正13年(1585年) 佐々成政が増山城を普請する。豊臣秀吉が越中に侵攻し、佐々成政が降伏する。増山城は前田氏の領有となる。
- 天正14年(1586年) 上杉景勝が上洛途中、中田で増山城主・中川光重の饗応を受ける。
- 元和元年(1615年) 廃城

### 形式と構造

#### 増山城郭群

増山城を中心として、北に隣接する亀山城や孫次山砦、南に位置する赤坂山屋敷・団子地山屋敷周辺を総称して「増山城郭群」と呼んでいる。北には、見張台や増山城の前身といわれる亀山城が位置している。亀山城の北東に孫次山砦が築かれている。増山城の南には赤坂山屋敷と団子地山屋敷があり、それぞれの尾根には巨大な堀切が造成されており、東側からの敵の進入を遮断している。城郭の遺構は、和田川東岸一帯の広い範囲に分布するが、もっとも城の修築が進んだ佐々時代には、城郭群すべてが一体となって整備されたと考えられる。よって、広義の増山城は城郭群すべてを包括する範囲を示し、狭義の増山城は内まわり道(林道増山城跡線)内側の城山一帯を指す。和田川

を挟んで対岸には、中世末期から近世初頭にかけて城下町が形成されていたと考えられ、現在は砺波市指定文化財となっている土塁が残っている。

#### 大手口

城の大手は定かではないが、①ウラナギ口（現在の和田川ダム管理事務所側）、②七曲り口、③無常下の鐘搗堂付近の3箇所が候補として挙げられる。

#### 一ノ丸

#### 二ノ丸

主郭（本丸）と考えられる。近世絵図に「二ノ丸」と表記されているが、これは城下町から近い順序で一ノ丸、二ノ丸…と呼称したためと言われている。構造的には長大な堀切によって囲まれており、もっとも防御されている郭であるため、主郭と位置付けられている。簀台石を塔心礎とし、仏教施設が存立した空間であったとする説もある。

#### 石垣

二ノ丸虎口下に城跡内で唯一の石垣跡が残る。「鏡石」ともいう。石材は、城の基盤である青井谷泥岩と思われる。石垣の石は、他にもあったが現在の増山集落に下ろされたと伝えられる。

#### 簀台石（神水鉢）

二ノ丸平坦面の中央に、円形の窪みが穿たれた石がある。窪みには常時水が溜まっており、渇水時にも枯れることはないという。

#### 櫓台（鐘楼堂）

二ノ丸東端にある台状高まりのこと。城跡内の最高所（124m）である。

#### 三ノ丸

オオヤシキともいい、安室屋敷の東に位置する。

#### 安室屋敷

二ノ丸の北に位置している。

#### 馬之背ゴ

城下町に面した斜面の頂に、数十mにわたって土塁跡が残っている。

#### 無常

二ノ丸南側に突き出した郭。

#### 御所山屋敷

主要郭群の北端に位置する。

#### 池ノ平等屋敷

神保夫人入水の井戸（池）があることから名付けられた。

#### 又兵衛清水

城主の家臣・山名又兵衛なる人物が発見したと伝えられる湧き水。二ノ丸の直下に位置し、城中の飲料水に用いられたと考えられる。砺波市では、瓜裂清水とともにとやま名水百選とやま名水百選に選ばれているが知名度がかなり低い。

#### 空堀

城内に敵の進入を防ぐ目的で空堀が計画的に配置されている。

#### 七曲り

大手口のひとつ。クネクネ曲がった登山道であることから名付けられた。

#### 法花坊峠遺構

平成14年に林道増山城跡線拡幅に伴い、発掘調査が実施された。亀山城と増山城の間にある谷部に位置しており、明瞭な遺構が期待されない場所であったが、16世紀後半と8世紀後半の2時期

の遺構・遺物が確認された。[1]城跡内で初めて掘立柱建物跡（方1間）が検出され、その建物を廃棄する際に底部に穴を開けた土師器を柱穴に埋納していたことがわかった。中世遺構の下層に奈良・平安時代の竪穴建物が3棟検出された。近くに須恵器窯である池ノ平等窯があることから、須恵器工人の作業場だった可能性が考えられる。

#### 亀山城

増山城郭群を構成する城郭。城郭群でもっとも高所にあり、主郭には三角点（標高133.1m）が設置されている。字「高津保理山」。城名は、亀山院の代官がいたことによるという伝承が残っている。江戸時代の史料「越中砺波射水両御郡古城等覚書」には、増山城の城名由来を「亀山之城より増タルヨシニテ増山と名付ル」との記録があり、亀山城が増山城より古い城であると伝えている。しかし、近年の発掘調査では、必ずしも増山城を遡る出土遺物はなく、史料の再検証が必要となっている。「越登賀三州志」には増山城と亀山城を「同蹟也」と記しており、誤りとみる研究者がいるが、広義の増山城という概念で捉えると必ずしも事実誤認とはいえない。ちなみに「越中志徴」では、「考ふるに、和田城と云は、今云増山城なるべし」と推察している。

#### 孫次山砦

増山城郭群を構成する城郭。城郭群中でもっとも北に位置する。城の中心は、字「孫次山」、西側斜面「大平等」、東側の谷「凧谷」で構成される。最高所は標高127.8mを測り、南に隣接する亀山城と比べ、見下ろされる位置関係にある。主として東西ふたつの曲輪群で構成され、東側斜面には二本の長大な竪堀が造成され、城を強固に守っている。

#### 城下町

和田川をはさんで城の対岸に城下町の遺構が残っており、寺土居町、野金島などの小地名のほか、下町、鉄砲町、大持、境角、そうけ屋敷、寺の坂、鉢巻などの地名や寺院の塚が残っている。遺跡名は「増山遺跡」だが、通称「城下町」と呼称される。下町は、昭和42年に建設された和田川ダムによってできた増山湖に水没している。『梅檀野誌』「鉄砲町」の項には、「往古増山市街町名ノ一ニシテ伝ヘ曰フ、鉄砲左エ門ト称スルモノ増山城主神保氏ノ請ニ応シ鎌倉ヨリ来リ盛ニ鉄砲ヲ造リタルヲ以テ町名トナレリト、其他下町寺土居町等ノ遺名アリ、古増山市街ハ八十八町ト数ヘシガ元禄年中土地開墾施行ニ際シ大ニ廢置ヲ行ヒシ為メ僅ニ前記ノ名称ヲ遺スノミ」との記述がある。

#### 増山遺跡の発掘調査

昭和52年に実施された圃場整備に先立つ試掘調査では、建築物を構成する柱穴、礎石、竪穴などの遺構や越中瀬戸、瀬戸・美濃、伊万里焼、唐津焼、中国製染付、土師質小皿などの遺物が出土しており、城下町の存続時期が天正13年（1585年）頃から寛文3年（1663年）頃までの約80年であることが判明した。

#### 増山城下町土塁跡

城下町西口に通称「土居」と呼ばれる土塁跡があり、現在約80mにわたって残っている。高さは2mに及び、西側に空堀の遺構が残っている。一乗谷朝倉氏遺跡に現存する城戸に相当する施設と考えられ、城下町の防御施設として造成されたものとみられる。土塁の中心部を抜けて城下町のメインストリート「下町大道」が城へ向って続いている。砺波市指定史跡。

Wikipediaによる

